

農林水産省フェイスブック 今月の「いいね!」がいっぱい!



左) 鼻の周辺が白いのか熊本県系
上) 鼻の周辺が黒いのが高知県系
下) あか毛和種は脂肪分の少ない赤味肉が特徴



農林水産省の公式Facebookページから、たくさん「いいね!」をもらったヒット記事を、厳選して紹介します。

あかい牛のあかいお肉

牛と言えば、白黒模様の乳用種「ホルスタイン」や、黒色の内用種「黒毛和種」がよく知られていますが、本日は褐色の毛が特徴的な肉用種「あか毛和種(梅毛和種)」をご紹介。あか毛和種は、もともと高知県と熊本県でそれぞれ飼育されていた体格が小さい牛に、スイス牛など、外国の体格のよい牛を交配させた品種で、昭和19年に和牛として登録されました。高知県系は鼻や角が黒く、毛色がやや赤褐色なのにに対して、熊本県系は鼻や角が白く、毛色が黄褐色で若干大型という違いがあります。

同じ肉用種の黒毛和種と比べると、体格が優れているほか、内質にかなりの違いがあります。黒毛和種は、お肉にサシ(脂肪交雑)が多く入っているのが特徴で、穀物飼料を多く与えます。一方、あか毛和種は、赤身が多いのが特徴。牧草などの粗飼料を多く与えるため、熊本の阿蘇地域などでは、広大な草原で放牧されるケースも見られます。

黒毛和種とのようすがたっぷり入ったお肉と、あか毛和種のような赤身主体のお肉、好みは分かれだと思います。あか毛和種のお肉、旅行先やお出でなどで見かけたら、試してみるといいかもしれません。



農林水産省公式フェイスブックページは、こちらから →



赤身も、霜降りも
大好きで迷うわ～
選ばれて紹介します。

広報誌aff(あふ) 感想をお聞かせください

今後よりよい広報誌となるよう、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ・広報誌affのサイトから回答できます。http://www.maff.go.jp/pr/aff/



今回取材した地域

特集1

- ① 沖縄県・津市
(井川屋・グループ会社)
- ② 宮崎県・宮崎市
(介護老人保健施設むかわ)
- チラシ販賣
- ③ 愛知県・南知多町
(株式会社島崎の学校)
- ④ 長崎県・雲仙市
(農業組合法人
守山女性部加工組合)
- 特集2
- ⑤ 鹿児島県・伊佐市



各ブースでの展示・実演のほか、特設ステージでは「攻めの農林水産業」をテーマに新技術のプレゼンテーションも予定



研究機関と
事業者を
マッチングする
場のね

「攻めの農林水産業」の実現をめざして 「アグリビジネス創出フェア 2014」を開催

→11月12日~14日の期間一



(右)「若手農林水産研究者表彰」や「民間部門農林水産研究開発功績者表彰」などを実施予定
(左上・左下)昨年の基調講演の模様

産省主催の「アグリビジネス創出フェア」。様々な展示やプレゼンテーションを通じて、農林水産・食品分野などの最新技術や研究成績をわかりやすく紹介します。また、研究機関同士や、研究機関と事業者との連携(マッチング)を促し、研究成果の実用化・事業化を目的としたイベントです。

フェアは11月12日から14日までの3日間、東京ビッグサイトで開催。大学などの学術機関、地方公共団体や独立行政法人のほか、民間企業など、150前後の出展が予定され、約3万5千人の来場者が見込まれます。期間中は隣接会場の「アクロ・インベーション2014」と合同で開催される

「アグリ・インベーション」として開催されます。会場では(例)ピーマン・キャビタル・マネジメントの土井洋人社長と、東京大学先端科学技術研究センターの森川博之教授による基調講演のほか、来場者の関心に応じて、コラボイナー、マッチングツール、「農林水産研究の今後の展開」と題したセミナーが予定されています。

会場では(例)ピーマン・キャビタル・マネジメントの土井洋人社長と、東京大学先端科学技術研究センターの森川博之教授による基調講演のほか、来場者の関心に応じて、コラボイナー、マッチングツール、「農林水産研究の今後の展開」と題したセミナーが予定されています。

一方、今年度からスタートする農林水産省の「ICT」活用を初出し業化・普及プロジェクトで、農業とは異なる分野の研究メンバーとも多くの交流が生まれ、まずは農業の現場から技術の実證研究や、宮城県で育成した水稲新品種「東北194号」「金のいぶき」などを紹介します。今年のテーマは、まずはばかりの農林水産業。宮城県農業・園芸総合研究所は、農林水産省の事業を活用した土地利用型営農政策の実證研究や、宮城県で育成した水稲新品種「東北194号」「金のいぶき」などを紹介します。会場では(例)ピーマン・キャビタル・マネジメントの土井洋人社長と、東京大学先端科学技術研究センターの森川博之教授による基調講演のほか、来場者の関心に応じて、コラボイナー、マッチングツール、「農林水産研究の今後の展開」と題したセミナーが予定されています。

昨年のアンケートでは、出展者の約77%が「エアへの出展価を受けている」アグリビジネス創出フェア。今年も新しいマッチングの誕生が期待されま

す。一方、今年度からスタートする農林水産省の「ICT」活用を初出し業化・普及プロジェクトで、農業とは異なる分野の研究メンバーとも多くの交流が生まれ、まずは農業の現場から技術の実證研究や、宮城県で育成した水稲新品種「東北194号」「金のいぶき」などを紹介します。今年のテーマは、まずはばかりの農林水産業。宮城県農業・園芸総合研究所は、農林水産省の事業を活用した土地利用型営農政策の実證研究や、宮城県で育成した水稲新品種「東北194号」「金のいぶき」などを紹介します。会場では(例)ピーマン・キャビタル・マネジメントの土井洋人社長と、東京大学先端科学技術研究センターの森川博之教授による基調講演のほか、来場者の関心に応じて、コラボイナー、マッチングツール、「農林水産研究の今後の展開」と題したセミナーが予定されています。

アグリビジネス創出フェア2014

開催日時：平成26年11月12日(水)～

14日(金)10時～17時

会 場：東京ビッグサイト西4ホール
東京都江東区有明3-11-1

入 場 料：無料

詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://agribiz-fair.jp/>